

NEW ヒライ信



VOL.2
NO. 98
(第198号)



がくしゅう 楽習塾 塾長 平井 たかお 幸雄

hiraisin@par.odn.ne.jp

猿（ざる・えん・サル）の進化

2016年（平成28年）の干支は丙申（ひのえ ざる）である。

申年に因んで「三猿」の3匹の猿が「ざる」→「えん」→「サル（去る）」に変化する・・・

見猿(ざる) 見猿(えん) 病が猿(サル)

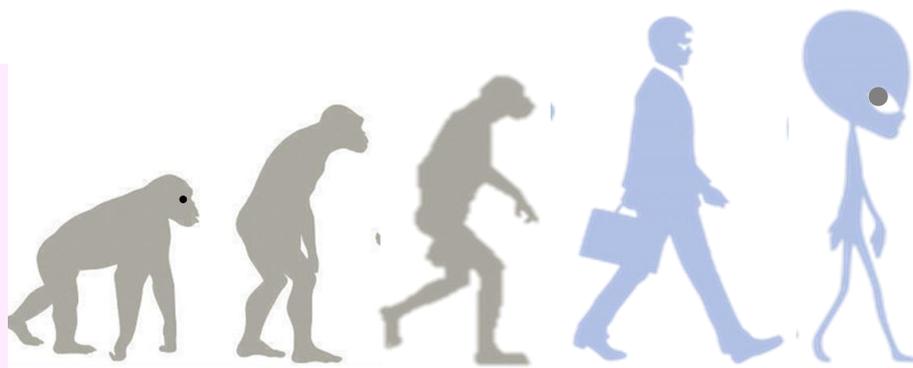
聞か猿(ざる) 聞こ猿(えん) 災いが猿(サル)

言わ猿(ざる) 言猿(えん) 争いが猿(サル)



三猿とは、「人の非を見ず」「人の非を聞かず」「人の過ちを言わず」の意味で、人間の戒めをサルにやらせて、猿まねさせている。人間の奥床しきところか、はたまた“する賢い”だけか。猿から学ぶ猿知恵を・・・
「愚かなる人類よ、汝はサルの一民族なり、奢ることなく我を見つめよ！」

猿が他の動物に比べ人に似ているためと思われませんが、人間はサルが進化したものだという。「人間は猿から進化した」ではなくて、「人間とサルは大昔の共通の祖先から分かれて進化した」です。その共通の祖先が、原始的なサルに似ている形状だったと言うだけのことです。動物園のサルをいつまで見ても人間にはなりません。



?

猿から進化した人類は、次にどう進化？退化？するだろう？

2004年の年賀状には、寂しそうに一匹で温泉に浸かる猿。12年という歳月が経ち、今年は隣に寄り添う小猿の姿が！
シンブルなデザインの中にも、時の流れがしみじみと感じられます。次の申年2028年にはどうなるだろうか？・・・その進化を予想してみました。



ざるのちえ 知恵
ひとまねじょうず 人真似
てをつかい

へんげにほおれ 変化 放れ
せわやく 世話
あろぬりそめ 色 塗り 染め

ゆらもあ ユーモア
はたらき
えみなこむ 笑み 和む

いろは四十八文字一文字ずつを使い申年を寿ぎました



さる・くる・さる・るるる・らりるれろ

ことばの世界に、名詞や体言に「る」をつけると動詞になるという。例えば、グチ（愚痴）る、ダベ（駄弁）る、テンパ（聴牌）る、ジコ（事故）る、ヒニク（皮肉）る、サボる（sabotage）、ダブる（double）、ミスる（miss）、トラブる（trouble）、パニックる（panic）、ハモる（harmony）ケチ（吝）る、カモ（鴨）る、ドジる、テカる、パクる、ラリる」などがある。

同様に、「あいうえお」の50音に「る」をつけると動詞になるかな・・・？

あ <small>ある</small> る	い <small>居る</small> る	う <small>売る</small> る	え <small>得る</small> る	お <small>折る</small> る
か <small>刈る</small> る	き <small>切る</small> る	く <small>来る</small> る	け <small>蹴る</small> る	こ <small>凝る</small> る
さ <small>去る</small> る	し <small>知る</small> る	す <small>刷る</small> る	せ <small>競る</small> る	そ <small>剃る</small> る
た <small>たのめる</small> る	ち <small>散る</small> る	つ <small>吊る</small> る	て <small>照る</small> る	と <small>取る</small> る
な <small>成る</small> る	に <small>煮る</small> る	ぬ <small>塗る</small> る	ね <small>寝る</small> る	の <small>乗る</small> る
は <small>貼る</small> る	ひ <small>干る</small> る	ふ <small>降る</small> る	へ <small>減る</small> る	ほ <small>掘る</small> る
み <small>見る</small> る	も <small>盛る</small> る	や <small>遣る</small> る	よ <small>寄る</small> る	わ <small>割る</small> る



「る」という文字が猿みたいに「ひらがな」に戯れている様子・・・

動詞よう？「ま・む・め・ゆ・ら・り・る・れ・ろ・を・ん」に「る」はつけられなかった。動詞ようもない！